

俳句の町・直方 句碑めぐり

直方市は直方藩の時代から俳諧が盛んとなり、武士だけでなく、裕福な町民、農民も俳諧に親しみました。そこから浮風、諸九尼をはじめ阿部王樹や野見山朱鳥など多くの俳人を輩出しました。直方市内にある句碑を紹介します。

阿部王樹（1821-1974）

- ・直方市多賀町公園
「炭坑王がいさおしともに陽炎す」
- ・植木地区
「鴉の声崖より迂り落ち来り」（旧王樹邸）
「乳瘤垂るゝ銀杏大樹や初明り」（花の木堰）
「ほとば志り出てうれしや春の水」（天満宮）
「汗々々貴き汗をしぼるべし」（植木小）
「植木中学校池二つ阿ふるる智恵の春の水」
（植木中）
「一石に一字暮し秋の声」（井関薬師堂）

青木月斗（1879-1949）俳諧誌「同人」主宰。

- ・植木地区
「遠山近水の霞が人を作りけり」（旧王樹邸）

野見山朱鳥（1917-1970）

- ・直方市多賀公園
「火を投げし如くに雲や朴の花」

有井浮風・諸九尼（1714-1781）

- ・多賀神社境内
「つれもありいまはの空にほととぎす」（浮風）
「行春や海を見て居る鴉の子」（諸九尼）
- ・中央公民館敷地内
「世を捨て見る分別や山さくら」（諸九尼）

二蕉庵直峰（1882-1971）

- ・随専寺境内
「行くほどに月雪花の道ふかし」

河野静雲（1887-1974）

- ・感田地区
「囀の拙けれどもひたすらに」

「直方と文学」N 910 ノ

「直方の歴史探訪シリーズ

直方市内北・南・山部編」N 219 ノ

「直方の歴史と文化財」N 219 ノ

筑豊文庫資料室だより

講演会「骨を噛む -上野先生とぼく-」 講師：犬養光博さん

会場：ユメニテイのおがた 小ホール 11月21日（土）10：00～12：00

犬養さんはキリスト教の牧師として大阪から福智町金田の福吉に住み着き、伝道所を開き、住民のために力を尽くしてこられました。そのきっかけは、1961年に「筑豊の子どもを守る会」のメンバーとして訪れた鞍手郡鞍手町の零細炭鉱の閉山地区の子どもたちの姿と、「知ることは変わる」という信念です。炭鉱閉山で困窮し荒れ果てた筑豊を知り、筑豊に住み続けることを決意されました。大きな影響を受けたという上野英信との関りや筑豊への思いをお聞きください。

著作：「筑豊に出会い、イエスと出会う」N 916 ち 「低きに立つ神」N 916 ち
「弔旗 筑豊の片隅から」「折出す祈り」（筑豊文庫資料室）など



直方の川柳師 中山仮面坊

川柳は俳句と同じ形ですが、俳句と違い約束事が少なく、口語を使い、風刺やユーモアをこめて社会や人物をよむものです。直方で川柳が活発になったのは、「月刊のおがた」での中山仮面坊選の柳壇への投稿からでした。

中山仮面坊（1913-没年不明）は本名一（はじめ）。当時の福岡日日新聞に投稿を始め、選者の井上剣花坊に認められ、川柳誌「川柳人」の同人となりました。「川柳人」には「川柳界の小林多喜二」とよばれた鶴彬（1909-1938）がいたことからその影響を受け、反戦的風刺的な川柳を作るようになりました。仮面坊は新たに川柳誌「火華」を立ち上げ、そこで自身の川柳を発表していきますが、鶴彬が検挙され、鶴彬の川柳を掲載していた「川柳人」が発行禁止となるなど、次第に厳しい弾圧を受けるようになり、川柳の発表を断念します。戦後「川柳人」復刊により復帰した仮面坊は、「川柳人賞」を三度も受賞するなどその力を認められるようになります。彼は直方に川柳の種を蒔き、多くの川柳作者を育てました。現在に至る直方の川柳の流れは仮面坊から始まったといえます。

「火華」中山仮面坊川柳集 中山仮面坊/著 N 911 ノ
「直方文芸史」舌間信夫/著 N 910 ノ
「月刊のおがた」（雑誌）



はじめの一步 ～郷土資料の紹介～

直方市立図書館にある郷土関係の本を紹介していきます。
郷土の歴史や文化に興味をもってください。きっかけになればと思っています。

『眉の清(ちゅ)らさぞ神の島 上野英信の沖縄』 三木 健：著 一葉社 N 910 子

筑豊炭鉱の記録作家・上野英信の遺作となった、唯一沖縄を扱った異色の作品「眉屋私記」。屋部（やぶ）村一族の苦難の歴史を凝縮した作品の背景や、登場人物などの解説に加え、作品の参考となったメキシコの炭鉱移民・山入端（やまのは）萬栄の手記も収録されています。

上野英信の没後 33 回忌を迎えるにあたり、眉屋一族生誕の地である沖縄名護の屋部地区に「眉屋私記」の文学記念碑が今年の秋に建立されます。その実行委員でもある著者がこれまで書き連ねてきた、英信と「眉屋私記」に関する文章を集めて編んだ、まさに紙の記念碑とも言える一冊。



直方市立図書館 直方市山部 301-11 コメニティのおがた内
TEL 0949-25-2240 FAX 0949-23-3902